

## 宮島学の方法 — 期待と課題



森 正夫

県立広島大学は、5年前の2006年、文科省から3年間のグラントを獲得して教育プログラム「学生参加による世界遺産宮島の活性化—学生が宮島の魅力を再発見し、世界に発信する—」と取組み、期間終了直後の2009年4月、自ら宮島学センターを設置した。「地域活性化への貢献」という新しい教育課題を解決するプログラム試行の段階から、この課題に即した教育とそれを支える研究を実施する持続的組織活動の段階へと前進したのである。私もグラントの審査に関わった一人として感慨深く同年6月の開所式に出席させていただいた。

目下宮島学センターでは第3年目が進行している。この間人間文化学部国際文化学科の授業科目として「地域文化学（宮島学）」（半年15回）を毎年開講してセンター教員の最新の研究成果を多くの学生に伝え、学生はレポート報告会で学びの結果に基づく研究発表を行っている。また教員は公開講座・公開講演会を県内各地で実施し、学生は教育プログラムの時代から蓄積したノウハウを継承して毎年宮島に関する自主研究に基づく図書館の企画展示を行い、宮島学園（宮島にある小・中学校）での教育活動や神社行事としての管絃祭に参加するなど多様なフィールドワークに従事している。2010年6月、県立広島大学は宮島観光協会と連携・協力に関する協定を締結し、大学は「宮島学セン

ターを中心とした宮島学の進展と地域社会への貢献」を、協会は「観光の振興と地域社会の活性化を推進」することとなった（『宮島学センター通信』第2号）。

赤岡学長は、地域史・文化史・交流史の3部門を置く宮島学センターによる宮島学教育・研究の土台は「歴史研究」とであるとされる（全上『通信』第1号）。なぜそうなのか。私は、宮島自体が歴史的に形成された広い意味での文化的存在であるからだと考えるが、問題は理念上の議論ではない。大切なことは、景観・環境から動植物に至るまで、宮島のもつ無限に多面的な姿そのものを肌で受け止める感性、資料に即し事実に基づいて粘り強く考え抜く知性、フィールドワークを積極的に進める実践性、常に地域社会の人びとと共に活動する協働性である。これこそ学際的に展開する「歴史研究」の方法の基本である。

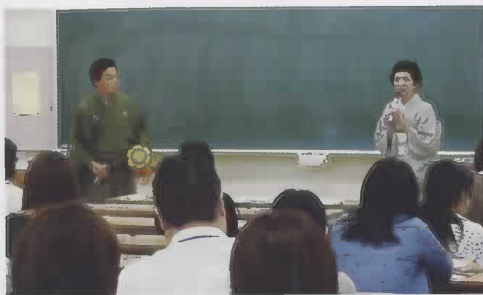
すでにある学生は、レポートの中で厳島神社の社殿の色彩の赤から白（木肌色）へ、また赤への変化を指摘し、感性の鋭さと表現の深さにより私たちを驚かせた（全上『通信』第2号）。センター教員の研究は、上記教育プログラムの最終報告書等に数多く収録されているが、ある論文は、厳島神社の舞楽「蘭陵王」の源流が広範なアジア諸地域に見出され、しかも伝承と展開の形態がきわめて日本的であることを解明して宮島文化のもつ豊かさを発掘し、私たちの想像力を掻立てている（『学生参加による世界遺産宮島の活性化』最終報告書）。これらは宮島学的方法的可能性を大いに期待させる証左である。他方で、センターにおける教育、研究、これらを基盤とする地域連携を将来にわたって創造的に持続していくことはたやすいことではなく、そのことへの自覚もまた必要である。

（名古屋大学・愛知県立大学名誉教授。中国史）

## 平成23年度「地域文化学(宮島学)」

平成23年度の「地域文化学(宮島学)」は「文化・芸能」をテーマに日本史、日本文学、日本芸能史、中国文学、英文学などを専門とする教員が担当しました。また特別講師として岩惣六代目女将(先代)岩村尚子氏と特別ゲストの福原一間氏をお迎えし、「私と宮島とお客様」というテーマで講義をしていただきました。

岩惣は宮島の紅葉谷で明治時代から続く老舗旅館であり、その女将として、歴史と伝統を守りながら、お客様を迎えてこられた岩村さんに、おもてなしの心、お客様との触れ合いによって学ばれたことや、宮島の魅力について語っていただきました。



期末にはレポート報告会を実施しました。

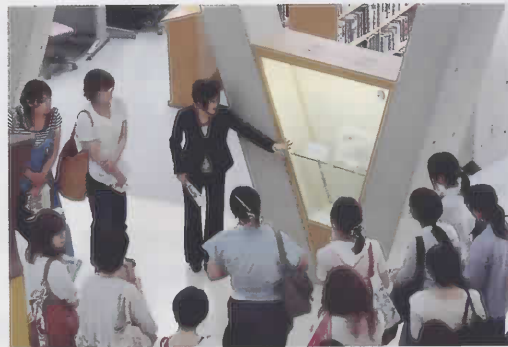
日程	テーマ	講師
4/11	地域文化学(宮島学)について	大知 徳子
4/18	宮島の祭	大知 徳子
4/25	厳島神社の宝蔵と文化財保存	松井 輝昭
5/14	「地域文化学(宮島学)」フィールドワーク	秋山伸隆、樹下文隆、松井輝昭、鄭銀志、大知徳子
5/16	「厳島八景」と観光	柳川 順子
5/23	「厳島八景」と観光	柳川 順子
5/30	厳島における中世以降の芸能の歴史	樹下 文隆
6/6	厳島における中世以降の芸能の歴史	樹下 文隆
6/13	私と宮島とお客様	特別講師 岩惣六代目女将(先代) 岩村尚子氏
6/20	平家納経に親しむ	西本 寮子
6/27	江戸時代、厳島を訪れた人々	西本 寮子
7/4	西洋人が見た明治時代の宮島	天野みゆき
7/11	西洋人が見た明治時代の宮島	天野みゆき
7/25	レポート報告会	学生

## 図書館企画展示

「みやま・いきもの展～伝承と現在(いま)に生きる～」

平成23年7月1日から14日まで、本学広島キャンパス図書館において図書館企画展示を開催しました。宮島の「いきもの」をテーマに、鹿、猿、カラス、馬、天狗、狛犬、龍に関する資料を集め、展示しました。

この展示は、学芸員養成課程の授業科目「博物館実習」(担当:松井輝昭、大知徳子)の受講生5人(国際文化学科4年:多田恵美、中井麻実、中村真季子、松前紗希、吉井梢)と学芸員資格取得を目指す学生1名(国際文化学科2年:山本直人)が担当しました。また、昨年度、図書館企画展示を担当した大学院生の2名(総合学術研究科2年:山田優子、1年:中川瑛梨)が学生に指導・助言をおこないました。また、2名の学生が展示キャプションの中国語・韓国語への翻訳に協力しました(国際文化学科4年:松川由侑、総合学術研究科1年:窪田彩乃)。期間中、延べ380名の方が来場されました。



図書館での展示説明の光景



## 宮島学園での展示

廿日市市立宮島小学校・中学校文化祭(10月31日)で、宮島学センター所蔵の資料を展示しました。これは7月に開催した図書館企画展示の一部を再現したものです。児童・生徒、教職員、保護者の方々など約200人が来場されました。

## 平成22～23年度宮島学園との連携事業

平成22～23年度、教員志望の学生（4年生）を、週1回のペースで、廿日市市立宮島小学校・中学校（以下、宮島学園）に派遣しました。以下は学生による体験記です。

### 「宮島学園で教わったこと—サインとツール—」

「新しい先生?」「どっから来たん?」「…（きよろきよろ）」私が初めて宮島学園を訪れた日、子どもたちは様々な反応を示してくれました。どの反応も私にとっては新鮮で、これから始まる宮島学園での活動に、胸が高鳴る思いがしたのを覚えています。

私は平成22年10月に宮島学園での活動をスタートしました。週1回、1日を宮島学園で過ごしました。様々な教科の授業を参観させて頂き、英語科では授業の補助や実際に授業をさせて頂くなど、非常に多くの実践的な経験をしました。英語の授業を中心に、子どもたちと関わるすべての時間を大切に、できるだけ多くのことを知りたいという思いで臨みました。

活動が始まると、毎日の経験一つ一つが、私にとって刺激的なものばかりでした。先生方の授業を参観させて頂き、授業の流れ、注意の引き付け方、教材の使い方、などに個性的な魅力が溢れていて、教室が一体感に包まれているのです。しかし、いざ私が実際に授業に取り組んでみると、大切なポイントたった一つも、分かりやすく伝えるのは、まだまだ想像以上に困難なものでした。また、子どもたちがどこまで学習していて、どこまで理解しているか、しっかり見極めて教材を作成していくことも、非常に難しいことでした。準備で試行錯誤を繰り返した結果、授業で子どもたちの笑顔が見られると、費やした時間はすべて報われる思いがしました。

また、宿題ノートひとつをとっても、毎週チェックしていると子どもたちの変化が伝わってくるのです。単語ごとに間隔をあけられるようになった生徒、大文字の「K」と小文字の「k」の違いを認識してくれた生徒、自分なりにノートをまとめるようになった生徒など、1冊のノートからも子どもたちの成長を知ることができました。

子どもたちは様々な思いを抱えて学校にやってきます。例えば、授業中に見せてくれた「笑顔」というサインや、「ノート」というツール。初日の子どもたちからの「言葉」というツールや、「無言」というサイン。

子どもたちの反応や成長は、あらゆる場面で見つかります。見逃すことの無いよう、常に心掛けていられる先生になりたいと改めて思いました。

宮島学園では、より実践的な位置で活動をさせて頂き、今まで知らなかったことも経験することができました。現場の先生方から直接アドバイスを頂けたこと、実際に教壇に立つまでの期間を学校で過ごせたことは、本当にかげがえのない経験だと思っています。本当にありがとうございました。宮島学園での経験を糧にして、これから出会うたくさん子どもたちに、成長の手助けと恩返しをしていきたいと思っています。

（榊平 静香）

※榊平静香さんは、平成23年3月に卒業したあと、中学校教員として活躍中です。



## 吉和小学校での教育実践

平成22年9月17日、大知徳子助教が廿日市市立吉和小学校3・4年生（複式・栗栖弘幸教諭）の「総合的な学習の時間」のゲストティーチャーとして招かれました。吉和小学校は、廿日市市教育委員会の「チャレンジ学校づくり」支援事業として、年4回宮島小学校との相互交流を実施しています。大知助教は、元文4年（1739）に建てられた大鳥居の上部の<sup>げんぶん</sup>上包板には吉和の杉が用いられていたことを素材にして、「吉和と宮島のつながり」について考えさせる授業を行いました。この授業を学んだ吉和小学校の児童は、次に宮島を訪れた際、宮島小学校の児童の前で吉和と宮島のつながりについて発表したそうです。

吉和を含む対岸の廿日市市域と宮島は、歴史的に見れば、「支え、支えられる」関係にありました。世界遺産厳島神社は、宮島だけではなく対岸を含めた地域の人々の力で守っていかねばならないことを理解していただくためには、宮島学の活動を廿日市市域全体にも広げていく必要があります。

（秋山 伸隆）



## 平成23年度公開講座・講演会

宮島学センターでは、宮島学の研究成果を広く公開するために、公開講座・公開講演会を実施しています。

### 宮島学センター公開講座

(廿日市市教育委員会・廿日市市生涯学習推進本部と共催)

会場：国民宿舍みやじま杜の宿（宮島）

受講者：延べ 335 名

日程	テーマ	講師
6/22	厳島合戦と宇賀島	秋山 伸隆
9/7	西洋人が見た明治時代の宮島	天野みゆき
1/25	厳島神社の遷宮と毛利氏家臣桂元重	大知 徳子

### 第3回宮島学センター公開講演会

(第1回地域学リレー講演会)

会場：尾道商業会議所記念館（尾道市）

受講者：64名

日程	テーマ	講師
5/21	厳島神社蔵の反古裏経の世界 —尾道を厳島神社につなげるもの—	松井輝昭
	厳島合戦と宇賀島	秋山伸隆

### 第2回地域学リレー講演会

会場：福山市立大学（福山市）

受講者：23名

日程	テーマ	講師
1/28	地域を知る・学ぶ・考える —尾道学研究会の取り組み—	尾道学研究会 企画事務局 林 良司氏
	尾道の歴史的市街地形成過程と 近代化遺産	福山市立大学 都市経営学部教授 西川 龍也氏

(実施予定)

### 第3回地域学リレー講演会

会場：県立広島大学

日程	テーマ	講師
3/25	福山の歴史的な位置と現在	福山市立大学 都市経営学部講師 八幡 浩二氏
	宮島・尾道・鞆を結ぶもの —中世の海の道—	秋山 伸隆

### 公開講座「厳島神社に魅せられた平清盛の世界へ」

(観光マネジメント人材育成セミナー関連事業)

(広島県、廿日市市、社団法人宮島観光協会、大河ドラマ「平清盛」廿日市市推進協議会と共催)

後援：(社)広島県観光連盟、大河ドラマ「平清盛」広島県推進協議会

会場：国民宿舍みやじま杜の宿（宮島）

受講者：延べ 436 名

日程	テーマ	講師
10/2	内侍と平家の伊都岐嶋別宮	大知 徳子
	厳島神社をめぐる平清盛・ 頼盛兄弟の微妙な関係	松井 輝昭
10/30	記憶に残る平家の公達 —『源氏物語』享受史のなかで—	西本 寮子
	清盛に敗れた男たち… 鎮魂の能の系譜	樹下 文隆



### 公開講演会「厳島神社と平清盛」

後援：大河ドラマ「平清盛」広島県推進協議会、大河ドラマ「平清盛」廿日市市推進協議会、社団法人宮島観光協会、NHK 広島放送局

会場：県立広島大学

受講者：332名

日程	テーマ	講師
12/18	平清盛を厳島神社に誘ったもの —地方霊場の輝きをめぐって—	松井 輝昭
	厳島神社と平清盛	放送大学教授 (東京大学名誉教授) 五味 文彦氏





## 平成23年度宮島観光英語ガイド講座

「宮島観光英語ボランティアガイド講座」(全11回)を実施しました。講師はリチャード・ウェバー氏です。この講座では、宮島の観光案内の知識を身につけ、外国人観光客を英語でガイドできる力を養いました。

9/27	Meet the participants; explain the course; Miyajima practical quiz; introduction to Miyajima
10/4	First virtual tour of Itsukushima Shrine, part one; names to remember; expressions to guide; introduction to Shinto and Buddhism; relationship of temples and shrines
10/11	Virtual tour of Itsukushima Shrine, part two; numbers to remember: practice key vocabulary and expressions to guide
10/18	History of the Ootorii, Senjokaku/Toyokuni Shrine, and the Five-storied Pagoda; virtual tour; practice key vocabulary and expressions to guide
10/25	History of Daiganji and Daishoin temples; virtual tour; shopping for souvenirs; foods of Miyajima; other shrines, temples, and significant places to visit; practice key vocabulary and expressions to guide
11/1	Mt. Misen and the natural beauty of Miyajima; virtual tour; key vocabulary, names and places
11/8	バーチャル英語ガイド
11/15	Putting it all together; final virtual tour; practice expressions learned; final Q & A; wrap-up
11/20	宮島観光英語ボランティアガイド講座 実践編①
11/26	宮島観光英語ボランティアガイド講座 実践編②
11/27	宮島観光英語ボランティアガイド講座 実践編③

11月に実施した実践編(宮島でのガイド)では、アメリカ、イギリス、スコットランド、オランダ、スウェーデン、チェコ、ギリシャなどから訪れた外国人観光客を案内しました。



◀ 1月8日のバーチャル英語ガイド



▶ 宮島口で外国人に英語ガイドを呼びかける

## 全国巖島神社参詣記③ 岩子島巖島神社・管絃祭

所在地:尾道市向島町岩子島 参拝日:平成23年7月31日

7月31日(日)、尾道学研究会の林良司氏の案内で岩子島巖島神社を訪れた。岩子島は御幸瀬戸を挟んで向島の西側に位置しており、夏には海水浴場にもなる美しい浜に巖島神社が鎮座する。浜には宮島の巖島神社と同じ朱色の両部鳥居が建っている。

かつて市岐島比売命いちきしまひめのみことが筑前宗像より瀬戸内海を巡幸した際、岩子島の浦浜にしばらく滞在したため、後世になって社を建てたとの由緒が伝えられている。岩子島の管絃祭は、市岐島比売命の巡幸になぞらえて始まったという。

宮島の管絃祭では巖島大明神の御神霊を金の鳳凰で飾った神輿で運び、船に据え付けるのだが、岩子島では御神霊の依代を「天嬪(てんびん)」の元に据え付ける。「天嬪」とは5メートルほどの長い棒の先に御神紋を象った提灯を付けたもので、その上に朱色の鳳凰が飾られている。

この「天嬪」を乗せて出航した御座船は塩籠神社沖に向い、大きく3匝(3回まわる)する。次いで大鯨島へ渡り、氏子が上陸する。氏子は急な斜面を登り、小さな祠に参拝する。

日が沈んだ頃、御座船の船団が、提灯を揺らしながらゆっくりと巖島神社沖に向う。

岩子島の管絃祭は一時途絶えていたが、総代の三阪博美氏を中心とした氏子の熱心な活動により平成9年に復活させたそう。以来毎年続けており、今年で15回目となる。現在では地元の子どもたちも参加し、地域の行事として定着している。

還御祭が終了すると、御座船の天嬪を模した小ぶりの天嬪が鳥居前より出された。この天嬪には四方に引き綱が取り付けられており、参道に待ち構える子どもたちによって「よいしょー!」と威勢よく引かれる。

天嬪の綱をしっかりと握り、一所懸命に引き倒す岩子島の子どもたちは、威勢がよく、誇らしそうに見えた。まさに「子どもたちの手」で地域の伝統文化が守られていると実感した。



(大知 徳子)

## 研究余録③

## 厳島門前町の宗教空間とその限界

—「あし山」の立地条件を手掛かりとして—

厳島（宮島）はいつの頃からか「神の島」と呼ばれるようになり、死穢（黒不浄）や産穢（赤不浄）などを忌む風潮が非常に強くなった。その名残は今日もお残されている。このケガレを忌む風潮は厳島神社の聖域性を守るための配慮で、神官はいうまでもなく門前町の人々をも厳しく縛ってきた。ケガレに触れた人はその強弱により厳島を一時的に離れるか、島内の「あし山」に身を隠す必要があった。ここではケガレに触れた人の一時的退避場所、「あし山」の立地条件を手掛かりとして、門前町にも目に見えない区画があった可能性を探る。

江戸時代も中頃になると厳島門前町には、「東町」・「西町」という区分けが見られた。同じ頃、「あし山」も「東町」の東側、「西町」の西側に設けられていた。「東町」で「あし山」と呼ばれたものは、厳島神社の鬼門とされる「大弥堂」の東側にあった。同町はこの堂より東側にも延びているから、ほぼ地続きのところにあったといえる。「西町」の「あし山」はこれとは違って、同町の西端に当たる大西町よりも、さらに西側の山中にあった。二つの「あし山」の立地条件には大きな違いがある。これは「西町」が厳島神社の真後ろに広がっていて、ケガレを厳しく忌む必要があったからであろう。「経の尾」と呼ばれる尾根が、人家と「あし山」の境界になっていた。「東町」は「塔の丘」が厳島神社との境界になるため、「大弥堂」を形式的な境にすればよかったと考えられる。なお、この「あし山」のさらに東側に、江戸時代初期から遊廓が設けられた。

厳島が「神の島」といわれても、門前町の賑わい、その発展をはかろうとすると、このような宗教空間の境界の曖昧さも不可欠であったのだろう。

（松井 輝昭）



かつての大弥堂

（写真：廿日市市宮島町不動産）



## 資料を御寄贈いただきました

宮島学センターに次の資料を御寄贈いただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

## ■高島 隆氏

「厳島撮影 宮島名所 全集」

「千畳閣鬼瓦模造品」（宮島町総合庁舎落成記念、昭和44年（1969））ほか27点

## ■横山 忠司氏

「厳島」（厳島神社社務所、明治33年（1890））



## 編集後記

宮島学センター通信第3号をお届けします。

平成23年10月以降、平清盛関係の講座の広報用チラシ等には本学4年生の吉井梢さんがデザインした「平清盛」が登場しました。このマスコットキャラクターは、今後も宮島学センターで活躍します。

（0）



## 編集・発行

## 宮島学センター通信 第3号

平成24年3月15日発行

## 県立広島大学宮島学センター

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号

TEL.082-251-9550

E-mail:miyajima@pu-hiroshima.ac.jp

ホームページ:

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/miyajimagaku/index.html>